

平成12年度(第8回)専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会

委員長 大久保 利晃

平成12年8月19日・20日に、平成12年度(第8回)専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表することといたしました。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載いたします。

1. 筆記試験

昨年までと同じく、筆記試験は3つの観点から問題を作成しました。今年から各問題の配点を公表します。

A問題は、専門医として必要な基礎的知識を問う問題です。産業医学、衛生学、公衆衛生学、疫学、臨床医学等の分野から出題し、幅広い知識を評価することを目的とします。平成12年度の配点は40点でした。

B問題は、専門医としてのより深い知識を問う問題です。そのため、平成12年度は5問中3問を回答する選択方式としました。このことにより、受験者は得意とする分野の問題を選択して回答ができ、その分野の知識を的確に評価できるようになります。平成12年度の配点は30点でした。

C問題は、受験者が、産業医として活動するなかで経験したことに基づいて回答する極めて専門性の高い問題です。一般的な知識とともに、実際的な問題解決能力をも評価する観点から問題を作成します。このため、平成12年度は、5問中2問を選択し回答する方式としました。配点は、30点でした。

【A問題】10問のすべてについて簡潔に回答せよ。

1. 事業場の衛生委員会の構成員を列挙せよ。

2. ある検査法の陽性・陰性と、疾患のあり・なしについて以下のような関係であった。

		疾 患	
		あり	なし
陽性		27	35

検査			
	陰性	10	77

この検査の敏感度と特異度はそれぞれ下のどれか。

A. 0.25 と 0.75 B. 0.44 と 0.89 C. 0.70 と 0.30 D. 0.73 と 0.69

3. 疫学調査法のうち、断面調査と縦断調査の利点と欠点を比較しながら述べよ。
4. 有機溶剤の吸収、排泄の経路として重要な器官を列挙せよ。
5. 職場の安全衛生活動の基本といわれている4 S活動の4 Sとは何か？
6. 職場巡視の際に防毒マスクの管理についてチェックすべき点を列挙せよ。
7. 全産業の死亡災害の原因について、多いものを列挙せよ。
8. VDT作業を行う際に、正しい作業姿勢をとるために必要な指導事項を列挙せよ。
9. 酸素欠乏の危険のある職場を4つ挙げよ。
10. 有害物質の曝露を防止するための改善手法を4つ挙げよ。

【B問題】5問中3問を選び回答せよ。

1. 有機溶剤を使用している作業場で平均曝露濃度を測定したところ、トルエン濃度が30ppm、キシレン濃度が30ppm、酢酸メチル濃度が10ppm、ノルマルヘキサン濃度が8ppmであった。この作業場の曝露評価はどのようにするか。ただし許容濃度はトルエンが50ppm、キシレンが100ppm、酢酸メチルが200ppm、ノルマルヘキサンが40ppmとなっている。
2. 夜勤を含む交替制勤務従事者の労働負担を軽減する対策を述べよ。
3. 大手製造業の生産ラインの新入社員が、高分子樹脂を塗布する作業に従事して2週間して手の皮膚障害を訴え、上司とともに健康管理室に来所した。産業医に意見を求めている。どのように回答するか？
4. 流れ作業で製品を作っているライン作業者の上肢障害予防策について述べよ。
5. 復職判定時に産業医が行うべき確認事項について述べよ。

【C問題】5問中2問を選び詳述せよ。

1. 検査方法の「妥当性」と「信頼性」の概念について説明せよ。
2. ある機械工場では、それまで屋外で実施していた部品の塗装作業を、かつて倉庫として使用していた建屋内で行うことにした。産業医として指導すべき内容は何か？

3. ある金属精錬工場を15年前に50歳で退職した生産工が悪性中皮腫で死亡した。遺族が、業務上疾病ではないかと労働基準監督署に申し出た。所轄監督署から工場に本人の職歴を問い合わせてきた。ところが、この工場では石綿（アスベスト）を直接は使用していないという。工場長から産業医に対して、「当社での業務上疾病かどうかを調べるためには、どのような情報が必要であろうか」と質問された。どのように回答するか？
4. 安全衛生委員会で残業時間の長い従業員を対象に特別の健康診断を企画することとなった。産業医として立案せよ。
5. いわゆる過労自殺に対する事業者責任の範囲について説明せよ。

2. 口頭試験

口頭試験では、個々の知識と関連領域の知識との整合性や、知識の総合性、経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等を見ることを目的とした。口頭試験【A-1試験】・【A-2試験】・【B試験】では、4名のグループ2組と、5名の1組で3種類の試験が実施された。

【A-1問題】

1. 海外派遣労働者に対する健康管理について述べなさい。
2. 近年多発する建設現場での労災事故（死亡）を減少するための施策を述べなさい。
3. 放射線被曝の種類と、生体影響および対策について列挙して下さい。
4. ダイオキシンが発生する焼却炉施設労働者の労働衛生管理について知るところを述べなさい。
5. 日本産業衛生学会の「許容濃度等の勧告」について、その種類、内容、適用条件、他国にはない特徴等について述べなさい。
6. 障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用法）について述べなさい。
7. じん肺法上のじん肺の合併症を挙げて下さい。
8. 比較的低沸点の有機溶剤を解放系で使用するにあたり、産業医のコメントを求められました。毒性情報以外の点について、コメントすべき要点を述べなさい。

い。

9. 小規模・零細事業所における産業保健上の課題（困難性）を挙げて下さい。
10. 労災補償の費目には、どのようなものがありますか。
11. 派遣中の労働者に関する労働安全衛生法の適用関係について、派遣元事業主、派遣先事業主に適用される事項をそれぞれ列挙しなさい。
12. 硫化水素中毒発生の原因、症状、予後、対策などについて知るところを述べなさい。
13. 1999年5月の改正労働安全衛生法（安衛則）の概要を述べなさい。
14. 農業労働における健康問題について論じなさい。

【A-2問題】

1. 携帯電話による電磁波曝露と脳腫瘍について、携帯電話製造工業会の安全衛生部会で疫学調査を実施することになり、各会社の産業医が主要調査メンバーとして名を連ねた。この調査の疫学デザインについて論じなさい。
2. いわゆる「過労自殺」を防ぐための産業保健活動についてまとめて下さい。

【B問題】

1. 「職業とストレス簡易調査票」を用いて調査を行ってはどうかという提案が、経営者から発案されました。産業医として、「実施の意義と留意点について」安全衛生委員会で10分間で述べて下さい。
2. ソフトウェア開発を主体とする企業で、特定の業務を除いて全社的に裁量労働制を採用することとなった。従業員数3,700人のうち、1,900人が対象となる。職種によっては、週に2日は出勤することが義務づけられているが、必ずしも毎日出社する必要はなくなった。こうした勤務形態に対して必要な産業保健サービスの内容と方法について、具体的計画を作成することが求められた。経営会議の場で10分で説明して下さい。
3. 平成10年度の国民栄養調査結果によれば、ここ約20年間で、男性は全年代で軒並み「肥満」が増加し、20代、30代の男性ではほぼ倍増している。一方、女性では、10代後半と20代で「やせ」が増えている。あなたの所属し

ている会社でも、その傾向が見られ、肥満とやせ対策が問題となっている。本年の健康管理計画においてとくに男性の実効ある肥満対策に取り組むこととした。どのような方法でどのように進めていくか、デザインを立てて10分間で説明して下さい。本計画立案は、健康管理スタッフ間で検討するたたき台と仮定して下さい。

4. 工場内の発がん性が疑われている有害化学物質が流出し、周囲の土壌・水系環境を汚染した。工場全体として対応することは言うまでもないが、産業医として対応策をまとめて欲しいと依頼された。安全衛生委員会で、10分間で意見を述べて下さい。
5. 従業員1,300名の自動車部品製造工場において、労働安全と労働衛生に関するリスクアセスメントの考え方について安全衛生委員会で報告することになった。安全については、安全部門の担当者による報告がある。衛生部門におけるリスクアセスメントについて、産業医の立場から10分間で報告しなさい。